

Kazuhiro Tsuchie

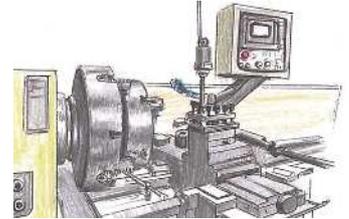
土江 和弘

株式会社高野鉄工所 代表取締役



デジタルとアナログ技術の融合で高品質な加工をめざす

長年にわたる^{せんぱん}旋盤加工経験から習得した諸技能をもとに、^{ちようじゃく}長尺旋盤加工に優れた技術を持つ。協力会社の保有する最新機械で加工技術を学ぶなど、自己研鑽意識が非常に高い一方、若者と新しい課題を一緒に考え解決していきたいという強い思いを常に持ち続けている。



希少性のある加工で差別化を図る

工場を訪れてまず驚いたのは天井の高さだ。通常のビルの2階分くらいだろうか。奥行きも有り、広いなというのが実感だ。土江さんの得意とするのは長尺旋盤^{けい}。径なら400φ^{ばい} (40cm)、^{しんかん}芯間が3m程度のアルミパイプを、コンピューターと手作業を駆使してミクロン単位の狂いもなく加工する。これだけの大きさのものを加工できる場所は少ない。将来はもっと長いものも加工できる機械を導入したいそうだ。広い工場と土江さんの自己研鑽力がそれを可能にするだろう。



工場の様子。天井が高い。

試行錯誤と綿密なデータの蓄積と検証

土江さんは、^{じゆくれん}熟練工に負けない技能取得方法として、常に試行錯誤しながら綿密にメモを取り、そのデータを基に比較検討してきた。その結果、「旋盤のポイントは回転、送り、スピードと油。」と導き出した。結果に基づき、必要に応じて治具を自作したり最適な部品等を探し、機械をカスタマイズできるのは、データの蓄積と検証のたまものだ。



長尺旋盤加工される部品が並ぶ。



CNC旋盤による高度な精密加工。

手旋盤とコンピューター制御を融合させて不可能を可能にする

手で操作する汎用旋盤^{はんよう}もCNC旋盤(手旋盤にコンピューターがついたもの)も使いこなせる土江さん。汎用旋盤を使えなければ、コンピューターの力があっても秀逸な製品はできないと、新しい技術を学びながら手動の技術も保持し続けている。今後若者に、CNC旋盤の使い方を教えて、経験が浅くても加工できるようにし、その次に汎用旋盤を教えていきたいと語る。失敗してもデータの蓄積をして仕事を続けるよう励ましながら。もちろん、若い人と接する時のポリシーである敬語を使うことも忘れずに。



自作の刃物を用いて手作業で加工したノコ歯ネジ部分と端部をCNC旋盤で丸めたシャフト。



汎用旋盤とCNC旋盤を使いこなす土江さん。

初めは外食産業

「大学は文系、就職も外食産業だったんですよ。」と話す土江さん。様々な経緯があって金属加工の仕事をしているが、「他の仕事からでも学べることはたくさんある。やりがいを見つけられれば、どんな仕事についていたとしても抵抗なく仕事に入っていける。文系でも鉄工所の仕事はできる。」そう自信を持って話す背景には、自身の経験があるからだろう。



セッティングに土江さんの厳しい視線が注がれる。

所属企業 株式会社高野鉄工所
〒552-0001 大阪市港区波除2丁目6-1 TEL: 06-6582-1212 FAX: 06-6582-1278



大阪テクノマスターとは…大阪市内のものづくり企業で活躍する“ものづくり”のスペシャリスト。

問合せ先 ▶ 大阪市 経済戦略局産業振興部産業振興課 〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビル オズ棟南館4階 TEL: 06-6615-3761 FAX: 06-6614-0190